

# 障害のある人と共に生きる

< 中学校 >

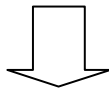
目的 障害について理解し、障害のある人と共に生きる社会の実現をめざそうとする。

< 気づく >

## 視覚障害者疑似体験をする

疑似体験を通して安心感や不安感を感じる。  
体験的に他人のあたたかさを知るとともに、人にまかせられる自分や、まかせられない自分に気づく。

視覚障害者疑似体験(アイマスク体験)  
・相手との信頼関係を確かめたり、視覚障害者理解や介護方法を学ぶための手法の一つ。  
・声を「出す・出さない」、アイマスクを「使う・使わない」など、目的に応じて工夫する。

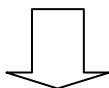


< 広げる深める 1 >

## 車いす体験をする

車いす体験を通して、普段生活している場所を見直し、他者を理解する視点をもつとともに、自分自身の生活を見つめる。

車いす体験  
・社会福祉協議会や福祉施設に協力依頼。  
・小学校での学習活動やねらいとの重複に留意。



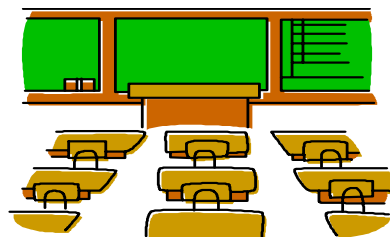
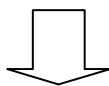
< 広げる深める 2 >

## 資料「同情に潜む差別意識」から考えよう

～ 差別や偏見のない社会の実現 ～

他人に対して、自分の優越感のためではなく、真に相手の立場や気持ちを理解し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする。

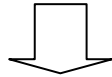
資料  
「同情に潜む差別意識」  
(学宝社)



<計画する>

## 自分にできる活動を考える

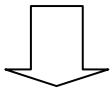
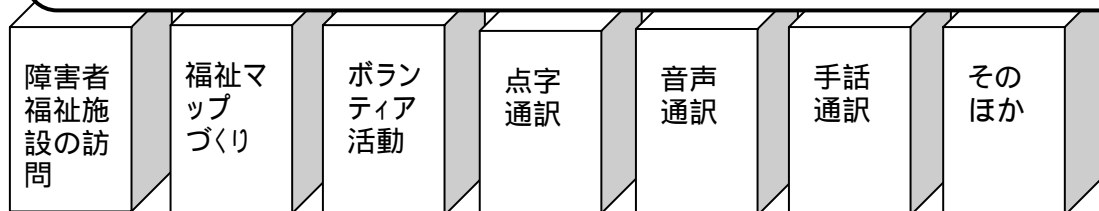
障害のある人たちに対して、自分ができそうなことを考え、計画を立てる。



<実践する>

## 自分にできる活動を実践しよう

計画したことの実践を通して、障害のある人に対して、共感的な理解を深める。



<振り返る>

## 体験レポートの作成と全体発表会をしよう

計画にもとづいて実践したことを振り返り、人として生きることの意味と尊さを知り、共に生きるために必要なことは何かを考える。



【学習を進めるにあたって】

- ・車いす体験や視覚障害者疑似体験を、学習の中心やまとめに取り入れるなど、ねらいに応じて工夫する必要がある。
- ・活動や体験を絞り込んで、学習を深めることも可能である。
- ・車いす体験や視覚障害者疑似体験は、小学校でも経験している場合があるので、学習の目的の違いを明確にする必要がある。